

第1回牧之原市教育のあり方検討委員会 次第

日時：平成30年2月1日(木)

午後1時30分～

会場：相良庁舎 3階会議室

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員の委嘱
- 4 委員長、副委員長の選出
- 5 教育委員会からの諮問
- 6 情報提供・趣旨説明
- 7 議 題
 - (1) 子どもたちにつけたい力について
 - (2) 必要な力を育むために、どんな学びが必要か。
何をどう学ぶのがよいか。
- 8 連絡事項
- 9 閉 会

担 当：牧之原市教育文化部教育総務課

電 話：0548-53-2642

FAX：0548-53-2657

E-mail：koyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp

第1回牧之原市教育のあり方検討委員会

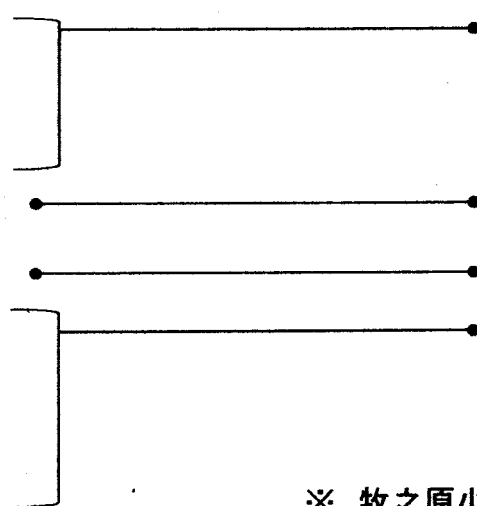
牧之原市教育文化部教育総務課

1 牧之原市の現状

牧之原市教育の基本情報

小学校 9校

相良小
菅山小
萩間小
地頭方小
牧之原小
川崎小
細江小
勝間田小
坂部小



中学校 4校

相良中 (うち、牧之原市管理3校)

御前崎中

牧之原中

榛原中

- ※ 牧之原小中学校は、学校組合立で、菊川市の子どもも通っている。
- ※ 地頭方小の子どもは、御前崎市が管理する学校組合の御前崎中学校へ通っている。

牧之原市教育の基本情報

児童生徒数(11/29 5.1現在)

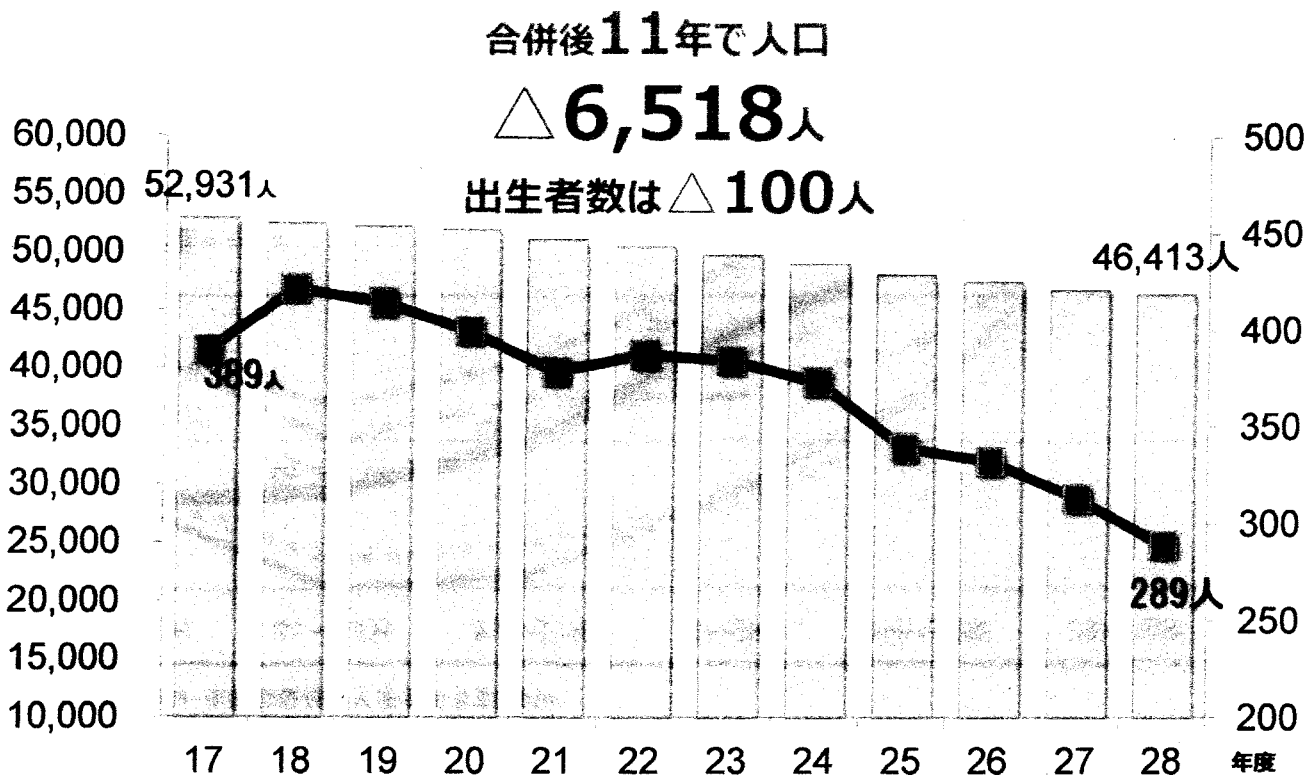
小学校名	児童数
相良小学校	550人
菅山小学校	153人
萩間小学校	116人
地頭方小学校	221人
牧之原小学校	151人
川崎小学校	443人
細江小学校	441人
勝間田小学校	131人
坂部小学校	110人
児童数計	2,316人

中学校名	生徒数
相良中学校	433人
牧之原中学校	74人
榛原中学校	555人
生徒数計	1,062人

児童生徒計 3,382人

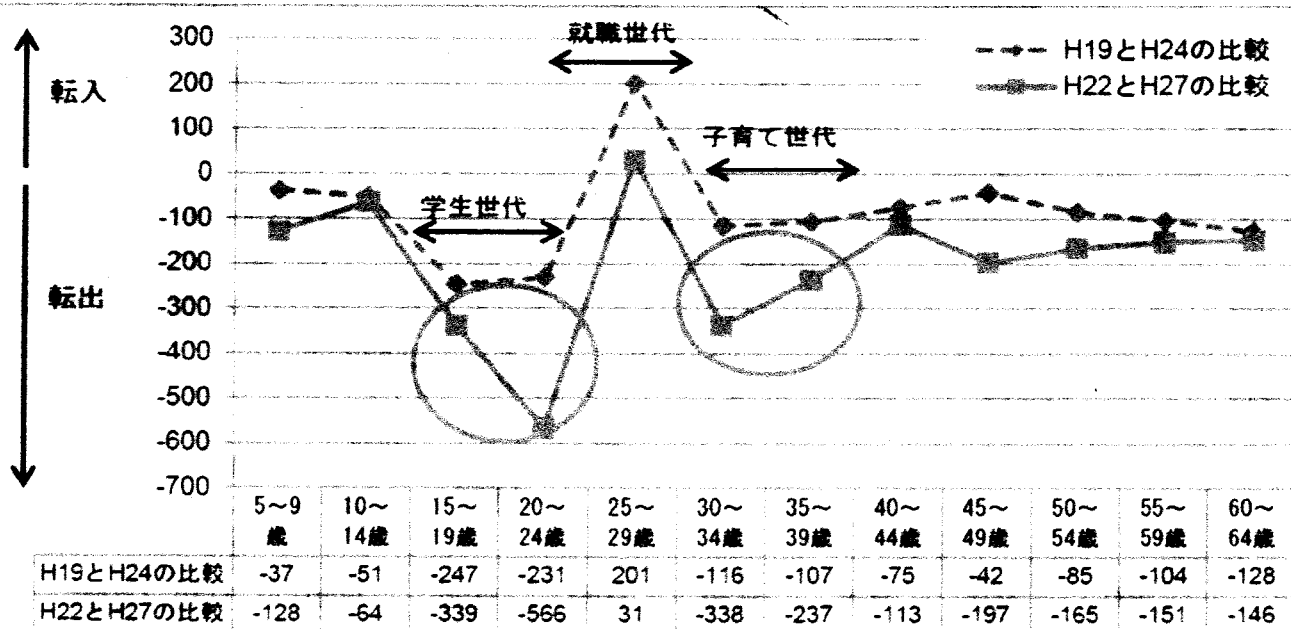
※牧之原市管轄の学校のみ

人口（外国人含む）と出生者数の推移



牧之原市の状況 年代別の減少率比較

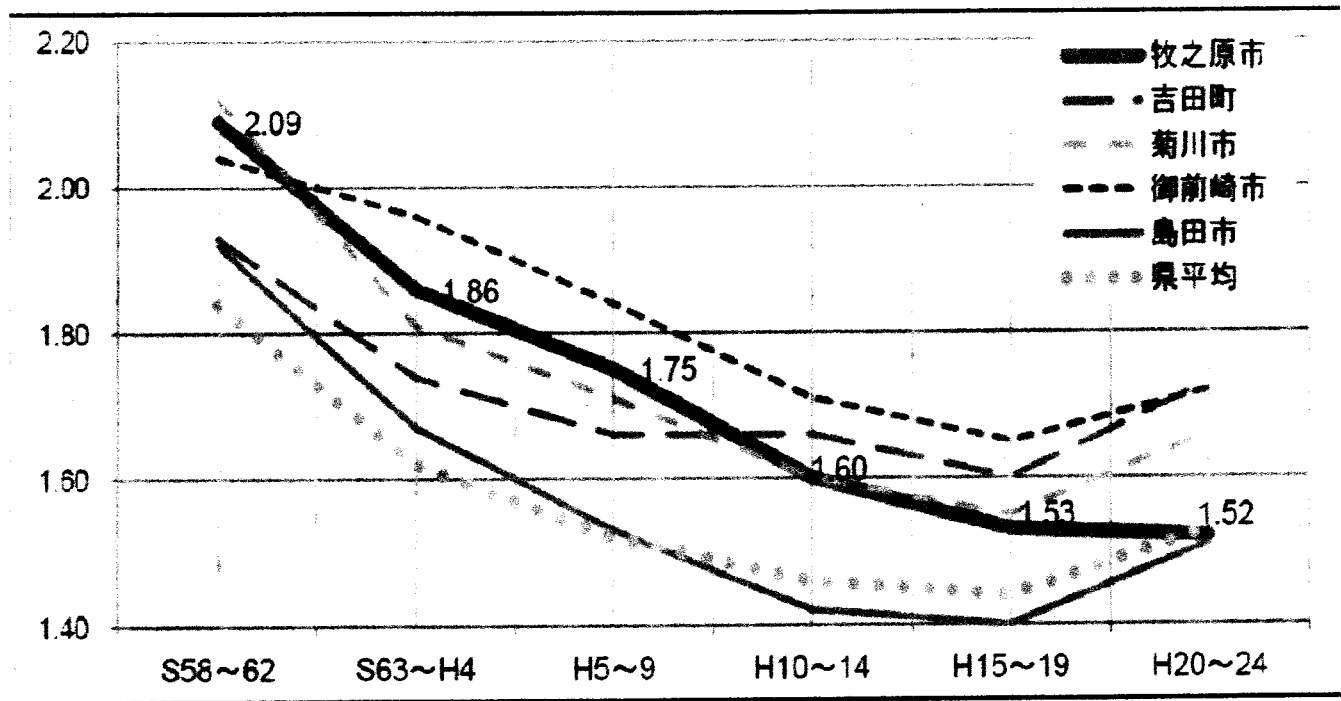
平成19年から平成22年、平成24年から平成27年の減少率の比較



出典:総務省国勢調査

- ◆ 20~24歳、30~35歳の減少率が高い。
- ◆ 以前から近隣市町に比べ、転出が多かったが、拍車がかかる形になっている。

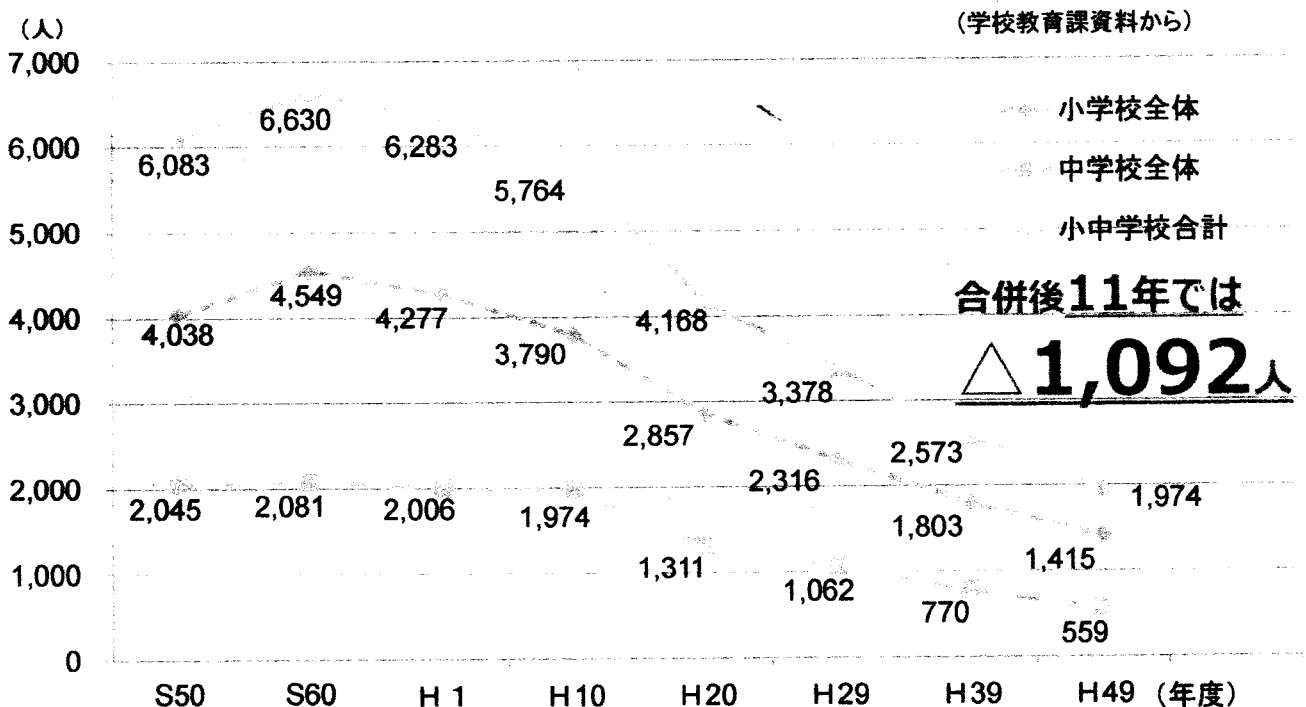
牧之原市の状況 子育て世代の人口



出典：厚生労働省人口動態保健所・市区町差別統計

- ◆ 合計特殊出生率が近隣市町に比べて低い。
- ◆ 他市が回復傾向にある中、まだ率は下がり続けている。

牧之原市の状況 児童生徒数の推移(予測含)

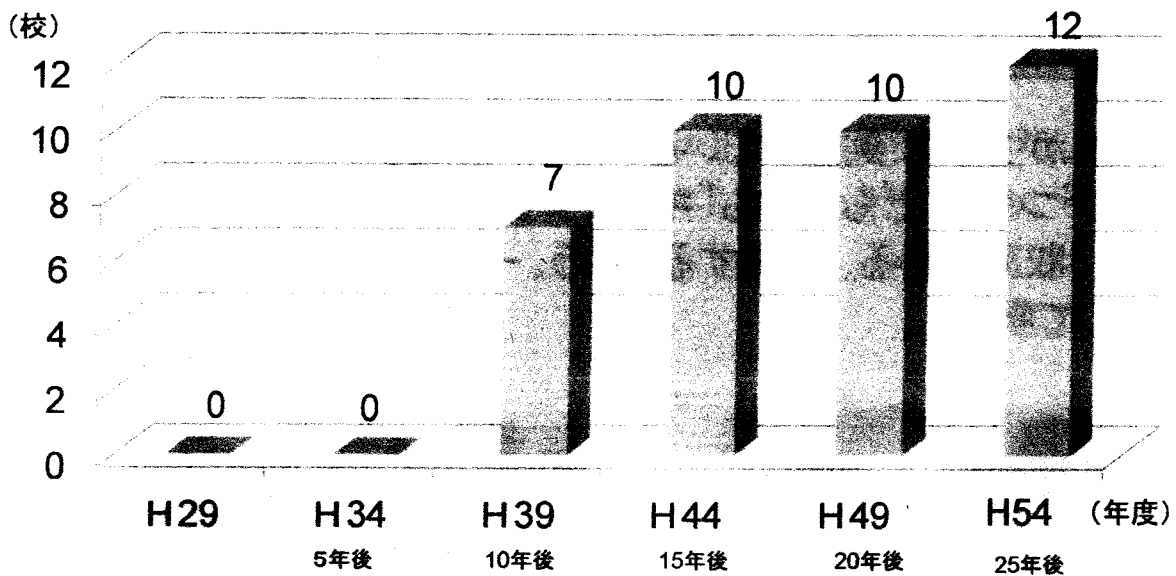


- ◆ 現在、児童生徒数は、ピーク時の約半分。
- さらに、20年後の児童生徒数は現在の半分近くとなる見込み。

牧之原市の状況 校舎の状況

■60年経過する校舎保有学校数

(教育総務課のデータから)



15年後 60年経過する校舎を保有する学校:10/12校
25年後にはすべての学校で60年を経過する校舎あり。

市の取組

キャリア教育

- ① 職業体験(中学2年生)
 - 市内の事業所に3日間の職業体験
学校がアポイントを取っている
- ② 先輩社会人講話(中学3年生)



産業学習

- ③ 地域の産業学習(小中学校)
 - 学校によりさまざま(お茶、自然薯、稲作等)
 - 市内企業等見学



キャリア教育

こどもがつくるまち

地域の大人が主体で実施しているキャリア教育。
小中学生がつくるこどものまち「キッズタウンぼくらのまちはら」
では、働く、収入を得る、消費するという、一連の社会の仕組み
を遊び通じて学ぶ。



英語力向上サポート事業

- ① 就学前から中学校までを対象とした対話的な言語活動の
時間の充実。

対 象	
ALT人数	5人
中学校3年生	35時間
中学校1, 2年生	70時間
小学校5, 6年生	35時間
小学校4年生	13時間
小学校3年生	12時間
小学校1, 2年生	5時間
就学児前	6時間 (幼稚園・保育園)

H32年度実施の
新学習指導要領に
先がけて、

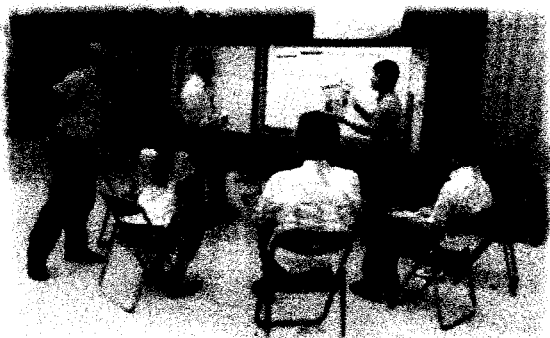
- ・4年以下の活動実施
- ・中1,2年の時間数増



※平成32年度からの新指導要領で小学校3年生からの
外国語活動を完全実施としている。

英語力向上サポート事業

- ② イングリッシュキャンプの実施
H28 2日間 ⇒ H29 3日間 に拡充
- ③ 英語検定の実施
- ④ 英語能力判定テストの実施(英検受験への意欲につなげる)
- ⑤ 教員の英語指導力向上研修実施

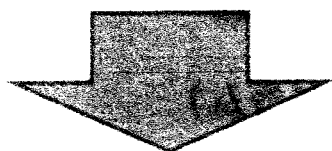


ICT活用推進事業



タブレット、電子黒板プロジェクター、書画カメラのセットを教室に整備し、児童生徒の深い学びにつなげる。

H29年度 48セット



**H30年度 小学校高学年
全教室に整備予定**



個に応じた教育



特別支援教育

幼児ことばの教室(H28年度は140名在籍。75名終了)
専門家チームの学校派遣(年3回)
言語聴覚士巡回訪問(年68回)
特別支援教育充実のための園・学校訪問(年8回) 等

学習支援



学習支援サポーター:17名配置。
授業で子どものサポートをする。
放課後学習支援:1日1時間。小-週5日、中-週2日実施

理科教育

理科支援員

理科支援員を配置し、実験の充実や
技術アドバイスをする。



山崎子ども教育振興財団との連携

- ① サイエンススクールの開催(土日体験プログラム)
※大学との連携・地元人材活用
- ② 理科等の図書の実施
- ③ 表彰

地域と学校の協働

中学校区ごとに学校支援コーディネーターを置き、学校からのサポート要望と地域のサポートしてくれる人とのマッチングと派遣を行う。



地域の人との活動・交流

地域の大人が指導者となり、社会奉仕体験、自然体験など、子どもがさまざまな体験ができる。



2 教育のあり方検討

学校に関する各種方針等

第2次総合計画重点戦略〈H27年度 8年間〉

- 1 活力を高め、若者が魅力を感じる住環境や雇用・教育環境などを実現する。
牧之原市が持つ、自然環境、特産品、地域の繋がり、雇用の受け皿となる企業、交通インフラなどの地域資源を意識し、磨きをかけ、豊かにし、横断的に人や組織が関わることで最大限活用するとともに、住環境や雇用、教育環境を充実します。

教育大綱〈H27年度 4年間〉

「児童数の減少や学校施設の老朽化に伴い、子どもたちが学びやすい環境を整えるため小学校の規模と配置の適正化を図ります。」

公共施設マネジメント基本計画〈H28年度 10年間〉

「小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定します。」



**学校再編の検討を求められている。
それにはまず、牧之原市がどのような教育をしたいかを考える
必要がある。「魅力」の視点も入れる。**

牧之原市の教育環境の方向性を考える

キーワードは20年後の牧之原市

はっきり
させる

20年後の牧之原市を考えて、何をどのように学ばせるのか？

学びたい！学ばせたい！と思われる魅力ある教育とは？

地域との関わり方は？

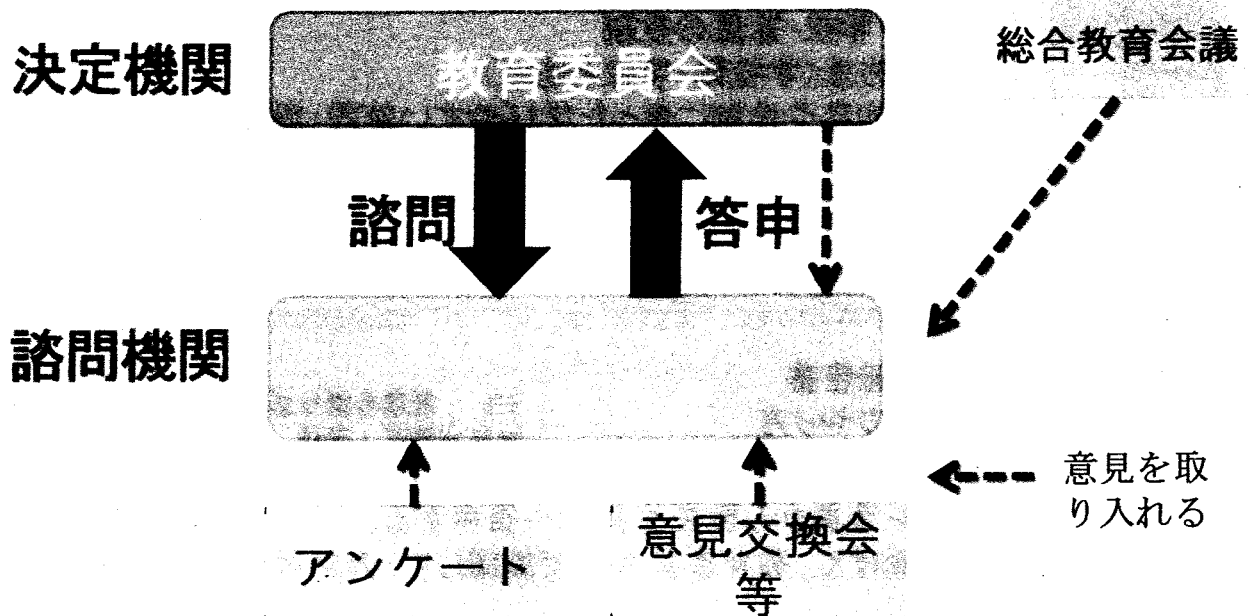
そのために必要な教育の内容や形、環境とは？



今後の牧之原市を見据えた、望ましい教育環境(施設設備・体制等)の方向性と具体案を出す

本委員会の位置づけ

- 教育委員会の諮問機関として、審議会形式で検討をする。
- 検討に当たっては、広く市民の意見を取り入れる。



検討委員構成と期間

委員構成(10人以内)

- 専門家(2人)
- 小中学校教職員(2人)
- 保幼・小・中学校保護者(2人)
- 企業(2人)
- 公募(2人)

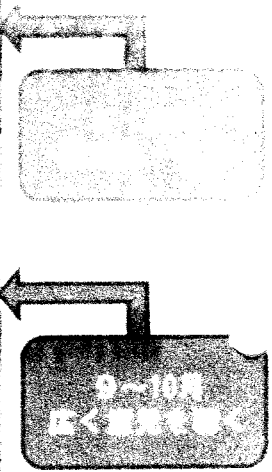
検討期間

平成29年12月～平成31年3月

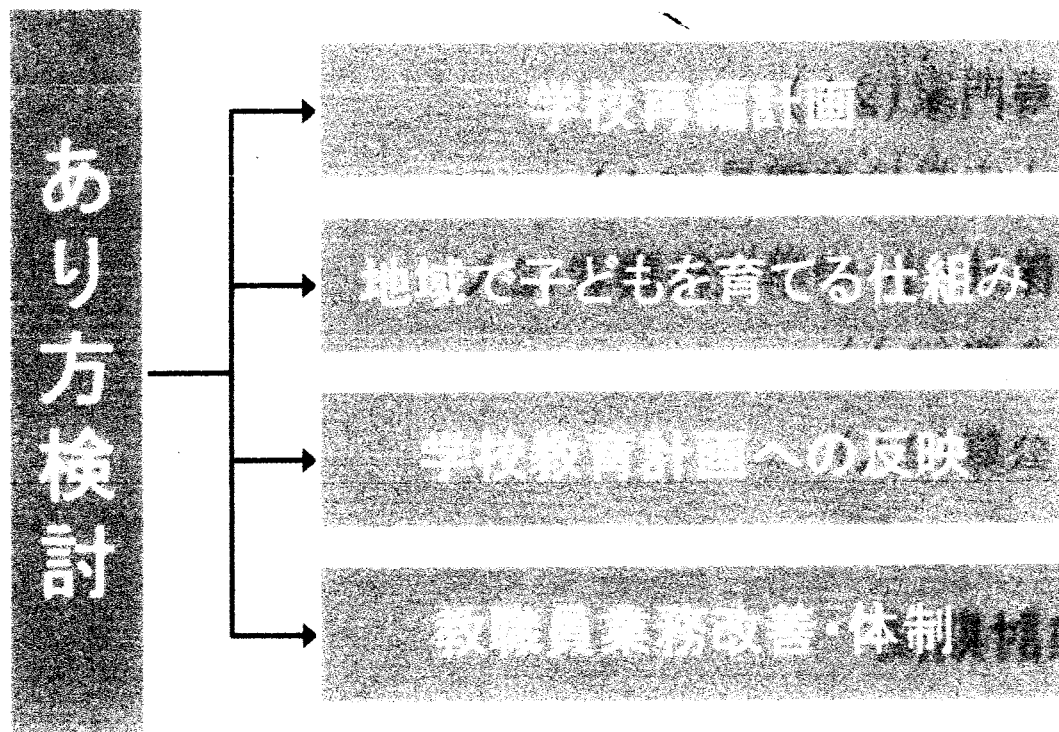
検討の進め方

※内容は進み方により前後したり、混在することがあります。

時期 (予定)	回数	内容
2、3月	第1・2回 議題・内容	① 学びの核となるもの、内容・取組等 ② 体系化、段階的なビジョン
4、7月	第3・4回 施設・体制	① 地域・学校・家庭の役割 ② 連携方法(学校間・学校と地域) ③ 教育内容や体制に合った学びやすい施設・設備
8月	第5回 報告書	① 第1回～第4回の内容から考える学校規模等 ② ①に合った地域との関わり方 <small>報告書に盛り込む内容の把握が出来る</small> ③ 広く意見を聴く方法
11月	第6回 答申	① 答申報告書 <small>聴いた意見も盛り込み、報告書修正・完成</small> ② 答申のやり方
12月	答申	報告書を委員から教育委員会へ答申する。 それを受けて、教育委員会内で協議して、方針等にしていく。



あり方検討からつながり 新たな検討が予想されるもの (一部)



市の現状と課題

■ 現状

- ① H27 年度に市の教育大綱ができた。「こころざしを持ち、夢あるひとづくり」の理念のもと、教育行政を行っている。
- ② 市総合計画の重点プロジェクトの一つである「宝子ども育成プロジェクト」では、幼保小中接続・連携の強化、英語教育・英語活動の充実、理科教育の充実、ICT 教育の推進、キャリア教育の推進が謳われている。
- ③ 幼保小中接続・連携の強化では、幼稚園・保育園に対して、特別支援教育での訪問や英語活動の導入をしている。
- ④ 英語教育では、新学習指導要領に先行して、小学校 1 年生から外国語活動を実施している。
- ⑤ ICT 教育が円滑に実施できるように、環境や関係機器の整備をしている。
- ⑥ 理科教育については、理科支援員を配置し実験の時間を確保している。また、山崎こども教育振興財団が実施しているサイエンスセミナーにおいて希望する者にさらに深い学びの機会を提供している。
- ⑦ 学校ごと特色ある教育が行われている。(お茶づくり、自然薯、花壇、文化発表、ふるさと学習等)
- ⑧ 市内には、9 小学校、4 中学校があり、そのうちの 10 校は市立、2 校は菊川市との学校組合立で管理者が牧之原市、1 校は御前崎市との学校組合立で管理者が御前崎市である。
- ⑨ 学校施設の耐震化 100%、トイレの洋式化 75%、中学校普通教室へのエアコン設置が完了しているが、多くの学校は老朽化が進んでおり、早いところでは 5 年後に 60 年が経過する校舎がある。
- ⑩ 人口減少に伴い、児童生徒数も減少している。現在、牧之原市が管理者である学校の小学生 2,316 人、中学生 1,062 人。平成 19 年度から平成 29 年度までの 10 年間で小学校は-19.6%、中学校は-23.6%、全体で 22% 減少している。特に、減少率が高いのは山側の萩間小学校で-34.5%。次いで、地頭方小学校-29.2%、川崎小学校-28.1%と沿岸部の学校となり、高台の牧之原中学校が-27.5%となっている。
- ⑪ 学校支援コーディネーターが相良中学校・榛原中学校区に 1 人ずついる。学校と地域との橋渡しを行っている。
- ⑫ 土日体験学習として「こどもまきのほら塾」を地域の大人が講師になって開催している。受講者は 153 人(重複除く)で、小学生の 6.6%の受講率となっている。

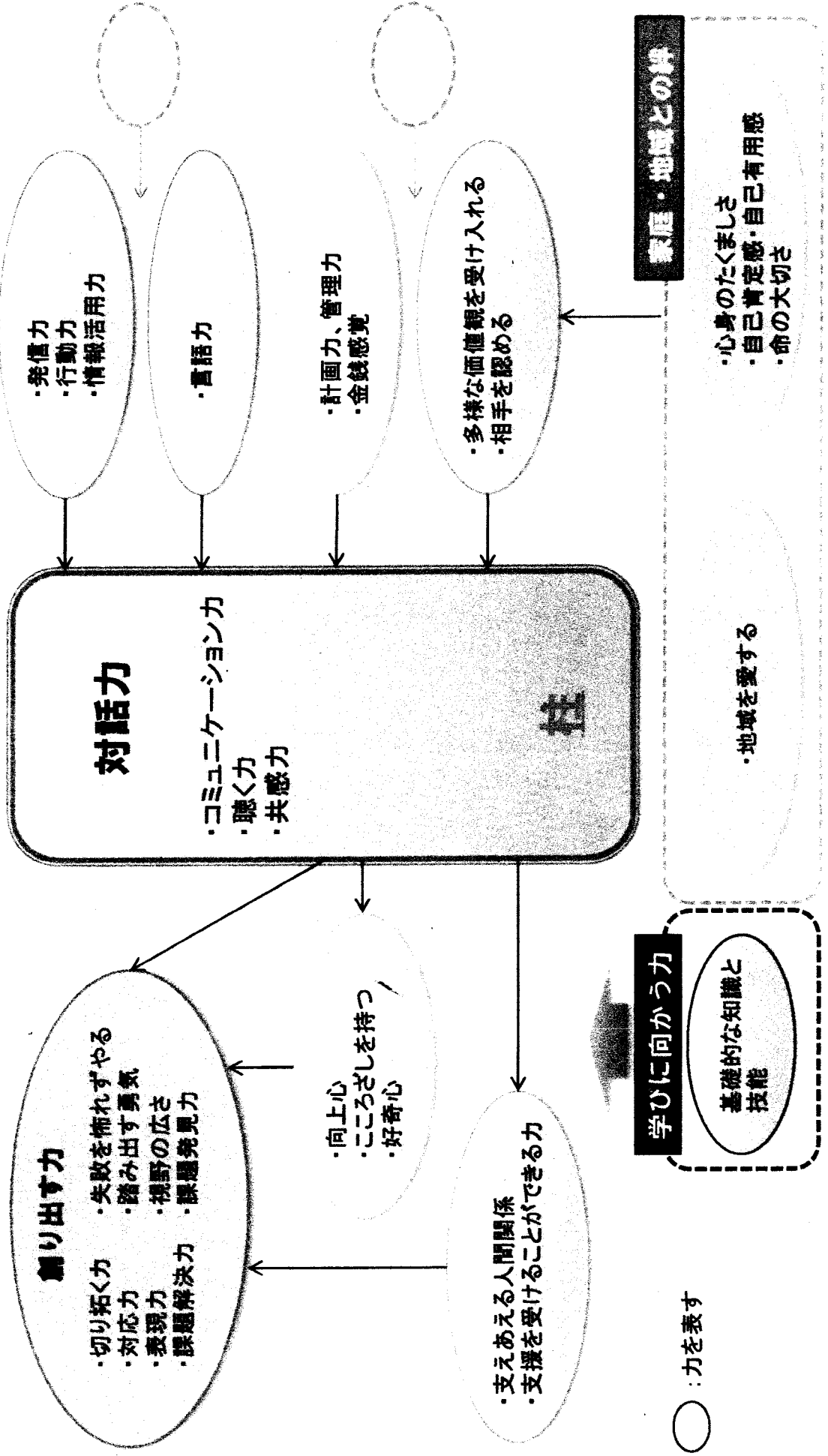
■ 課題

- ① 児童生徒数が減少しており、ピーク時の半分になっている。今後も減少することが予測されている。
- ② 校舎の老朽化が進んでいる。修繕が必要な箇所が年々増えているが、予算に限りがあるため、すべて修理することができず、修繕待ちや市職員が修繕を行っていることがある。順次大規模改修を行っているが、長寿命化措置ではなく、防水、エアコン設置、ICT環境の整備が主となる。漏水も多く、プールやろ過装置が老朽化しており修繕が必要なことが多い。
- ③ 学校支援コーディネーターは組織ではなく個人のため、活動範囲が限られてしまう。
- ④ 学校の体験活動等に協力をしてきている地域の人たちは高齢者が多く、活動の協力ができなくなるところが出てきている。
- ⑤ 市や学校でいろいろな取組をしているが、それを体系化したものがない。

牧之原市の子どもにつけたい力

教育の基本理念

こころざしを持ち 夢ある人づくり



牧之原市の子どもにもつけたいたい力とそのため必要なこと

資料3

教育の基本理念

こころざしを持ち 夢ある人づくり

対話の機会

創り出す力

- ・切り拓く力
- ・対応力
- ・表現力
- ・課題解決力
- ・失敗を怖れずやる
- ・踏み出す勇氣
- ・視野の広さ
- ・課題発見力

- ・向上心
- ・こころざしを持つ
- ・好奇心

- ・計画力、管理力
- ・金銭感覚

- ・支えあえる人間関係
- ・支援を受けることができる力

- ・発信力
- ・行動力
- ・情報活用力

対話力

- ・コミュニケーション力
- ・聴く力
- ・共感力

- ・言語力

- ・多様な価値観を受け入れる
- ・相手を認める

学びに向かう力

基礎的な知識と技能

・地域を愛する

- ・心身のたくましさ
- ・自己肯定感・自己有用感
- ・命の大切さ

家庭・地域との絆

○ : 力を表す

□ : 必要なことを表す

資料4 子どもにつけたい力と学び

H30. 2. 1 牧之原市教育のあり方検討委員会資料(教育総務課)

力	創り出す力	こころざしを持つ	計画力	発信力・情報活用力
学び	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見から課題解決までを実践しながら学ぶ。 価値を知る機会 いろいろなことにチャレンジする機会(成功数でなくチャレンジ数を評価) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の一員として担うことができて身につけることができようにする。また、自主的・自律的に考え、多様な他者と協働しながら、新たなモノ、サービスを生み出し、社会に新たな価値を創造する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■キャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> 夢を持ち、自分の将来のキャリアデザインをする。 そのために自分の特性やさまざまな職業を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活、テスト前、プロジェクト等の TODO 管理をする。 モノやサービスの価値を知る機会。 自分たちで物をつくって売る経験。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ICT教育 <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を育成する。 プログラミング教育
取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと学習 ○ 体験学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ チームビルディング 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業体験・ゲストティーチャー ○ 企業見学 ○ 体験学習 ○ ぼくらのまちのはら ・ キャリアデザイン ・ 起業家精神の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校農園で農作物を育て販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT 環境の整備 (タブレット、電子黒板プロジェクト) 一、 蓄画カメラの導入。 ○ 各授業での機器の活用。 ・ 大学、研究所との連携による授業等

【取組】○：現在牧之原市で実施しているもの、●：実施されていないが、懇話会の意見として出ているもの

資料4 子どもにつけたい力と学び

H30.2.1 牧之原市教育のあり方検討委員会資料(教育総務課)

力	多様な価値観	言語力	対話力	支援を受けける力
	<ul style="list-style-type: none"> 異文化交流。 世代を超えたふれあいの機会。 日本・地域の文化を知る機会。 	<p>■外国語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語活動、英語教育 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人と対話する機会。 対話の仕方を学ぶ。(聴く力) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ合意形成・課題解決する能力 ～「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために(審議経過報告)」～</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人と対話する機会 世代を超えたふれあいの機会。
学び				
取組	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習 体験学習 市内企業と連携し、外国人社員による課外事業等 	<ul style="list-style-type: none"> 就学前からのALTとの活動・授業 イングリッシュキャンプ 英語検定、英語能力判定テスト 教員向け英語指導力向上研修 	<ul style="list-style-type: none"> 対話の場(市) 職業体験・ゲストティーチャー 体験学習 ほくらのまちはら 	

【取組】○：現在牧之原市で実施しているもの、●：実施されていないが、懇話会の意見として出ているもの

資料4 子どもにつけたい力と学び

H30. 2. 1 牧之原市教育のあり方検討委員会資料(教育総務課)

力	自己肯定感を持つ等	地域を愛する	学びに向かう力
<p>学び</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権・道徳教育 いろいろなことにチャレンジする機会(成功数でなくチャレンジ数を評価) 個を大切にします。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の歴史・伝統を学ぶ。 世代を超えたふれあいの機会。 地域の人との活動・交流 地域と学校の協働 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領等 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「社会に関わられた教育課程」</p> <p>資質・能力の3本柱</p> <ul style="list-style-type: none"> 何を理解しているか、何が できるか(個別の知識・技能) 理解していること・できること とをどう使うか(思考力・判断力・表現力) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) </div> <ul style="list-style-type: none"> 学校間の連携
<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権・道徳教育 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加 土日体験プログラム ボランティア 体験学習 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育 学習支援サポーター 放課後学習 理科支援員配置 山崎子ども教育振興財団との協働 習熟度別学習

【取組】○：現在牧之原市で実施しているもの、●：実施されていないが、懇話会の意見として出ているもの

本報告の位置づけ

第3期教育振興基本計画の策定に向け、今後5年間の教育政策の目標や、それを実現するために必要な施策群について現時点までの検討の状況をまとめたもの。

第1部 我が国における今後の教育政策の方向性

I 教育の普遍的な使命

《改正教育基本法の理念》

第1条に規定する教育の目的である「人格の完成」、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」と、第2条に規定する教育の目標を達成すべく、「教育立国」の実現に向け更なる取組の必要

《改正教育基本法の理念を踏まえた教育の目指すべき姿》

(個人) 自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成
(社会) 一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会(地域・国・世界)の持続的な成長・発展

II 教育をめぐる現状と課題

(1) これまでの取組の成果と課題

(成果) ○初等中等教育段階における世界トップレベルの学力の維持、学力の底上げ

○大学における三つの方針(卒業認定・学位授与、教育課程及び入学者受入れの方針)の策定・公表等の進展

○学校と地域との組織的な連携・協働の進展 ○学校施設の耐震化 等

(課題) ○PISAにおける読解力の低下

○若者の自己肯定感が諸外国と比べて低いこと

○体力の向上や健康の確保 ○社会人の学び直し

○海外留学の促進や大学の国際的な評価の向上 等

(2) 社会の現状や2030年以降の変化等を踏まえ、取り組むべき課題

○人口減少・高齢化の進展 ○急速な技術革新

○グローバル化の進展と国際的な地位の低下

○子供の貧困など社会経済的な課題 ○地域間格差など地域の課題 等

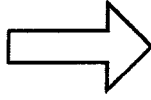
第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

5つの基本的な方針の実現に向け、それぞれの方針ごとに、平成30年度からの5年間を対象とした、

III 2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項

○ 豊かな社会を築くために、教育に力を注ぐ必要がある。教育に加えて、生涯にわたる学習や能力向上が必要

○ ICTを主体的に使いこなすとともに、人間ならではの感性や創造性を伸ばす ⇒ 人間の「可能性」の最大化
を生き抜くための能力の育成が必要



ICTを主体的に使いこなすとともに、人間ならではの感性や創造性を伸ばす ⇒ 人間の「可能性」の最大化
いくつになっても学び直し、新しいことにチャレンジできる環境をつくる ⇒ 一人一人の「チャンス」の最大化

○ 教育を通じた一人一人の「可能性」を最大限に引き出すこと
今後の教育政策の中心に据えて取り組む

※「基本的な考え方(概要)」の「III 国民・社会の理解が得られる教育投資の充実・教育財源の確保」については、今後の教育振興基本計画部会において検討を整理。

今後5年間の教育政策の目標と主な施策群
(ロジックモデル)

平成29年9月19日
中央教育審議会教育振興基本計画部会

1 夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

基本的な方針

夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成

<主として初等中等教育段階>

確かな学力の育成

子供たちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

豊かな心の育成

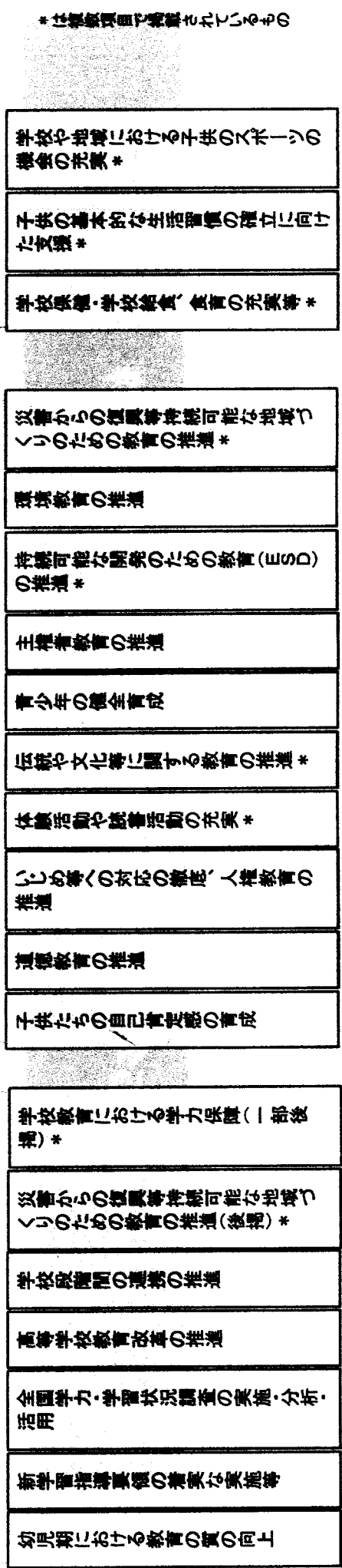
子供たちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性、個人の価値を尊重し、男女の平等を重んじる態度、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度、前向きに挑戦しやり遂げる力などを養う。

健やかな体の育成

生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成する。

多様なニーズを持つ者への教育機会の提供(後掲)*

主な施策群



*は複数項目で掲載されているもの

(測定指標候補)

- ・知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の資質・能力の調和がとれた個人を育成し、OECDのPISA調査等の各種国際調査を通じて世界トップレベルを維持(参考指標候補)
- ・学校における学習指導の改善の状況(習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行っている学校の割合等)
- ・OECDのPISA調査における習熟度レベル5以上(上位層)及びレベル2未満(下位層)の割合

(測定指標候補)

- ・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合の改善
- ・いじめの認知件数に占める、いじめの解消しているものの割合の改善(参考指標候補)
- ・今の自分が好きだと思ふ小・中・高校生の割合
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合
- ・児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数の都道府県格差の倍率

(測定指標候補)

- ・子供の体力水準を平成33年度までに昭和60年頃の水準まで引き上げる
- ・朝食を欠食する児童生徒の割合の改善
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている、毎日、同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合の改善
- ・むし歯(う歯)の者のうち処置完了者の割合の改善(参考指標候補)
- ・児童生徒(10~14歳)の睡眠時間
- ・肥満傾向時の出現率
- ・瘦身傾向児の出現率

基本的な方針

※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

今後5年間の教育政策の目標

<主として高等教育取組>

問題発見・解決能力の修得

学生に幅広い知識と教養、主体的に変化に対応しつつ学んだ知識・技能を実践・応用する力、さらには自ら問題の発見・解決に取り組む力を育成する。

<生涯の各段階>

社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成

自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養い、社会的・職業的自立の基礎となる基礎的・応用的能力を育成する。

家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

多様化する家庭環境に対し、地域全体で家庭教育を支える。また、地域社会の様々なかかわりを通じて、子供たちが安心して活動できる層場所づくりを進め、これからの時代に必要な力や、地域への愛着や誇りを子供たちに育成する。さらに、家庭や地域と学校との連携・協働を推進する。

主な施策

- 高大接続改革の着実な推進
- 学生本位の視点に立った教育の実現
- 教員・学生の流動性の向上
- 教育の質向上と効果的な運営のための高等教育機関間の連携強化
- 学生の学びの質を向上させるための基盤整備
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進(取組)*

- 各学校段階における産業界とも連携したキャリア教育・職業教育の推進
- 高等教育機関における実践的な職業教育の推進*
- 関係省庁が連携した社会への接続支援

- 家庭の教育力の向上
- 地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進*

*は数値目標や地域を定めているもの

(測定指標候補)

- 授業の予習・復習時間の充実等、学生の学修に対する取組態度の改善
- 大学における授業が学生の能力形成に役に立ったかについての肯定的な評価の増加
- 大学の授業が学生の能動的な学修(アクティブ・ラーニング)を促す形態(少人数クラス、演習・ゼミ形式等)になっている割合の増加
- 学生の問題発見・解決能力の育成につながる機会の増加(TAを配置する大学の割合の増加)
- (参考指標候補)
- 個別大学入学選抜における記述式問題及び英語の4技能

(測定指標候補)

- 中学校、高等学校、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校における職場体験・インターンシップの実施率の維持・向上
- 大学・短期大学におけるキャリア教育の実施状況の維持
- 企業等と連携して実施する企業の課題解決や製品開発等を題材とした授業科目を開講している高等学校、専修学校等の割合の維持・改善
- (参考指標候補)
- 将来の夢や目標を持つている児童生徒の割合

(測定指標候補)

- 地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる
- 家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒の割合の改善
- 朝食を欠食する児童生徒の割合の改善
- 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数の増加
- 地域の行事に参加している児童生徒の割合の改善
- 保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動が学校の教育水準の向上に効果があると思う学校の割合の改善
- (参考指標候補)
- 地域の子どもたちの教育に関わる地域住民が多いと感じている児童生徒の割合

※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

社会の持続的な発展を牽引するための多様な力の育成

基本的な方針

グローバルに活躍する人材の育成

伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成する。

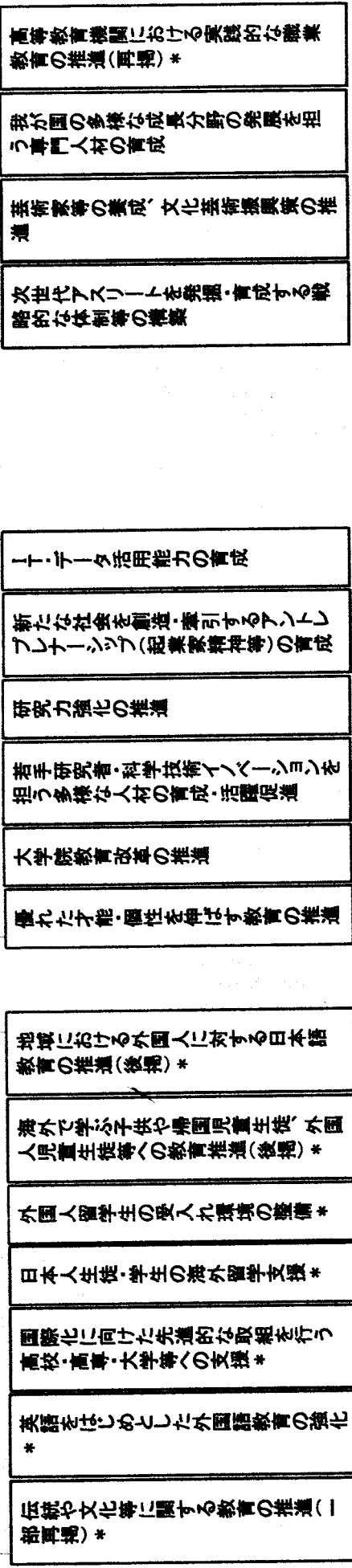
イノベーションを牽引する人材の育成

高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出し、その知から新たな価値を生み出す創造性を有して、既存の様々な枠を超えて活躍できるイノベーションを牽引する人材を育成する。

スポーツ文化等多様な分野の人材の育成

オリンピック・パラリンピック競技大会等で活躍が期待される次世代アスリートや、日本の文化芸術の持続的な継承・発展・発信に向け、文化芸術を創造し支える人材を育成する。また我が国の多様な成長分野の発展を担う専門人材を育成する。

主な施策群



*は複数項目で掲載されているもの

（測定指標候補）

- ・英語力について、中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当（英検3級等）以上、高等学校卒業段階でCEFRのA2レベル相当（英検準2級等）以上を達成した中高生の割合を50%以上にする
- ・英語による授業を実施している大学の数及び割合の増加
- ・日本人高校生数の海外留学生数を6万人にする
- ・大学等の日本人海外留学生数12万人を引続き目指していくとともに、短期留学の成果を活かしたグローバルに活躍する人材の育成についての新たな指標の設定を検討
- ・外国人留学生数30万人を引続き目指していくとともに、外国人留学生の日本国内での就職率を5割とする

（測定指標候補）

- ・理科や算数・数学が好きなと思う児童生徒の割合の増加
- ・修士課程修了者の博士課程への進学率の増加
- ・博士課程（後期）在籍者の2割程度が生活費相当額程度を受給できていることを目指す
- （参考指標候補）
- ・児童生徒の情報活用能力
- ・大学発ベンチャーの設立数
- ・産学協働の実践教育ネットワークによる情報技術人材の育成状況

（参考指標候補）

- ・我が国のトップアスリートがオリンピック・パラリンピックにおいて獲得する金メダルの数
- ・国際的に見た我が国のアスリートのドーピング防止規則違反確定率
- ※上記のほか、文化審議会における文化芸術推進基本計画策定に向けた審議状況を踏まえ設定

生涯学び、活躍できる環境の整備

基本方針

※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

今後5年間の教育政策の目標

人生100年時代を具現化した生涯学習の推進

人生100年時代を具現化し、全ての人が、生涯を通じて自らの人生を設計し、活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持、増進に資する生涯学習を推進し、「学び」と「活動」の循環を形成する。

人々の暮らしの向上と社会の持続的発展に向けた学びの推進*

少子高齢化、人口減少などの環境変化に対応し、人々が孤立することなく、生きがいを持って社会に参加し、地域社会の活力が維持・向上するよう、人々の暮らしの向上と社会の持続的発展に向けた学びを推進する。

職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直し

刻々と変化する社会に対応し、職業に関して必要な知識やスキルを身に付けて「学び」と「労働」の循環につなげることができるよう、社会人が大学等で学ぶ環境の整備を推進する。

職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進

職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進

障害者の生涯学習の推進

障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障害者が、学校卒業後も自らの一生を通じて自らの可能性を追求しつつ、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じて教育やスポーツ、文化等の様々な学習機会の確保に関する関係機関を横断的に総合的に推進する。

主な施策

- 現代・社会的な課題に対応した学習等の推進
- 女性活躍推進のためのリカレント教育の強化
- 高齢者等の生涯学習の推進
- 若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 生涯を通じた文化芸術活動の推進
- 生涯を通じた学習の成果の適切な評価・活用のための環境整備
- 社会教育行政のネットワーク化の推進
- 社会における人づくり、地域づくりを担う中核人材の育成
- 民間の資金とノウハウも活用した持続可能な社会教育施設の運営
- 教育機関における産業界と連携した実践的な教育カリキュラムの編成・実施
- 働きながら教育機関において学ぶ学習環境の整備
- 経済的な支援の実施
- 労働者の学びに関する企業側の理解促進
- 高等教育機関における実践的な職業教育の推進(再掲)*
- 学校卒業後における障害者の学びの支援
- * 地域学校協働活動の推進(一部再掲)
- 切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実(一部再掲)*
- 大学等における学生支援の充実
- 障害者スポーツ、障害者の文化芸術活動の振興

*は補助項目や再掲されたもの

(測定指標候補)

- この1年間の生涯学習の実施状況において「生涯学習をしたことがない」と回答する者の割合の減少
- 生涯学習をしたことがあると回答する者のうち、生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を①仕事や就労の上で生かしている者の割合の向上②家庭・日常の生活に生かしている者の割合の向上③地域や社会での活動に生かしている者の割合の向上
- 成人のスポーツ実施率を平成33年度までに週1回以上を65%程度、週3回以上を30%程度にする
- 文化芸術の職業活動をする者の割合、鑑賞以外の文化芸術活動をjする者の割合の改善

(測定指標候補)

- 身に付けた知識・技能や経験を地域や社会での活動に生かしている者の割合の増加
- 関係機関と連携事業を行った社会教育施設数の割合の増加
- 地域の様々な住民の社会教育への参加を促すためのボランティア登録制度を設けている社会教育施設の割合の増加

(測定指標候補)

- 大学・専門学校等での社会人受講者数を100万人にする

(測定指標候補)

- 障害者の生涯学習の推進状況を測定する指標の設定及び調査の在り方を今後検討。

※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

基本的な方針

誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築

多様なニーズを持つ者への教育機会の提供*

障害や不登校、日本語能力、複合的な困難等の多様なニーズに丁寧に対応し、一人一人の子供の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を実現する。併せて、ライフステージ全体を通じて、多様な背景を持つ人々のニーズに応じた教育機会を提供する。

家庭の経済状況や地理的条件への対応

家庭の経済状況や地理的条件によって、子供が進学等を断念することがないように、家庭の教育費負担の軽減を図るとともに、幼児期や小学校低学年の時期から子供の学びをきめ細かく支え、セーフティネットを構築する。

主な施策群

- 教育へのアクセスの向上、教育費負担の軽減に向けた経済的支援
- 学校教育における学力保障・進路支援、福祉関係機関等との連携強化*
- 地域の教育資源の活用
- 子供の食事・栄養状態の確保
- 〈き地や過疎地域等の児童生徒等への就学支援
- 体験活動や読書活動の充実(再掲)*
- 伝統や文化等に関する教育の推進(再掲)*
- 学校保健・学校給食、食育の充実等(再掲)*
- 子供の基本的な生活習慣の確立に向けた支援(再掲)*
- 学校や地域における子供のスポーツの機会の充実(再掲)*

- 特別支援教育の推進*
- 不登校児童生徒の教育機会の確保
- 夜間中学の設置・充実
- 高校中退者等に対する支援
- 高等学校定時制課程・通信制課程の質の確保・向上
- 海外で学ぶ子供や帰国児童生徒、外国人児童生徒等への教育推進*
- 地域における外国人に対する日本語教育の推進*

*は複数項目で掲載されているもの

(測定指標候補)

- ・経済的な理由による大学等中退者・高校中退者の減少
- ・生活保護世帯に属する子供、ひとり親家庭の子供、児童養護施設の子供の高等学校進学率、大学等進学率の改善
- ・理想の子供数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と感じる者の割合の低下(参考指標候補)
- ・大学進学率の地域間格差について、地理的状況、経済的状況、県内・近隣圏域における就職可能性などの要因を総合的に分析して、地域ごとの課題を把握し、対応していくためのフォローアップの手法を開発。

(測定指標候補)

- ・幼稚園、小・中・高等学校等における特別支援教育に関する個別の指導計画・教育支援計画の作成率の向上
- ・小・中・高等学校等において通級による指導を受けている児童生徒数の増加
- ・合理的配慮の提供について個別の指導計画又は個別の教育支援計画に明記することとしている幼稚園、小・中・高等学校等の割合の改善
- ・学校内外の機関等で相談・指導を受けていない不登校児童生徒の割合の改善(参考指標候補)
- ・スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置の割合
- ・各都道府県における夜間中学の設置状況

教育政策推進のための基盤の整備

基本的な方針

※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

今後5年間の教育政策の目標

教師の養成、採用、研修の充実や、魅力ある優れた教師の確保・資質能力の向上を進めるとともに、学校の指導・事務体制の効果的な強化・充実、専門スタッフとの連携・分担体制構築等を通して、教師が本来行うべき教育に関する業務に集中できる持続可能な学校指導体制を整備する。

※今後、中央教育審議会初等中等教育分科会学校における働き方改革特別部会での議論を踏まえ、追記を検討

新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等

高等教育段階について、教育の質向上の観点からICTの活用を積極的に推進する。またICTの活用による生涯を通じた学習機会の提供を推進する。

ICT活用のための基盤の整備

初等中等教育段階について、①必要な情報を収集・分析・整理・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力(情報活用能力)の育成、②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた各教科等の指導におけるICT活用の促進、③校務のICT化による教員の業務負担軽減及び教育の質の向上、④それらを実現するための基盤となる学校のICT環境整備の促進に取り組む。

また、私立学校についても、国公立学校の状況を勘案しつつ、ICT環境整備を推進する。

ICT活用による生涯を通じた学習の推進

安全・安心で質の高い教育研究環境の整備

教育内容・方法等の変化や多様化への対応などの教育環境の質的向上を図りつつ、早期に耐震化を完了し、長寿命化改修を中心とした計画的な老朽化対策を進める。また、教材、学校図書館、社会教育施設等の学校内外における教育環境を充実する。さらに、大学施設については、計画的な老朽化対策に併せ、次代を担う人材育成や、ベーパーレス化のための教育研究環境の整備を推進する。

また、通学の精神に通づく多様な人材育成や特色ある教育研究を履かし、公教育の大きな部分を担っている私立学校の重要性に鑑み、その基盤としての教育研究環境の整備を推進する。

安全・安心で質の高い教育研究環境の整備

主な施策群

教職員指導体制・指導環境の整備

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上

情報活用能力の育成

各教科等の指導におけるICT活用の促進

校務のICT化による教員の業務負担軽減及び教育の質の向上

学校のICT環境整備の促進

大学におけるICTを活用した教育の推進

ICTの活用による生涯を通じた学習の推進

安全・安心で質の高い学校施設等の整備の推進*

学校における教材等の教育環境の充実

私立学校の教育研究基盤の強化

人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進(再掲)*

(測定指標候補)

- ・現職教員に占める当該学校種類に相当する専修免許状保持者の割合の改善
- ・教職大学院の修了者数の増加
- ・特別免許状の授与件数(特に小中学校)の改善
- ・(独)教職員支援機構の実施する有意識率の改善
- ・小中学校の教諭の1週間当たりの学内総勤務時間の短縮
- ・小中学校の教諭の1日当たりの専務時間(平均)の短縮
- ・教育委員会における所管する学校に対する業務改善方針・計画等の策定状況の改善
- ・教員と事務職員等との役割分担に向け、事務職員の役割の異直し、標準職務の明確化に取り組んでいる教育委員会の割合の改善
- (参考指標候補)
- ・小中学校の教諭の1日当たりの授業準備にかける時間(平均)の勤務時間(平均)に占める割合

(測定指標候補)

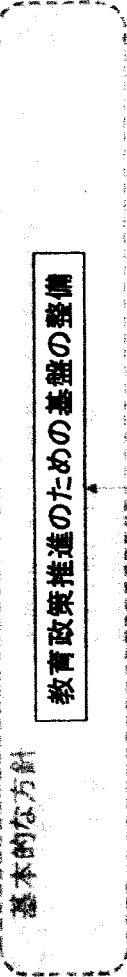
- ・教員のICT活用能力の改善
- ・学習者用コンピュータを3クラスに1クラス分程度整備
- ・普通教室における無線LANの100%整備
- ・超高速インターネットの100%整備
- ・ICTを活用した教育を実施する大学の割合の改善
- (参考指標候補)
- ・児童生徒の情報活用能力
- ・児童生徒のICT活用状況
- ・校務のICT化による教員の業務負担軽減の効果

(測定指標候補)

- ・公立学校施設の長寿命化計画の策定率を100%にする
- ・緊急的に老朽化対策が必要な公立小中学校施設の未改修面積の計画的な縮減
- ・教育研究活動に着しく支障がある国立大学等の老朽施設の未改修面積の未改修量の計画的な縮減
- ・国立大学等における耐用年数を大幅に超過したライブラインのうち配管配線等の未改修量の計画的な縮減
- ・私立学校の耐震化等の推進(早期の耐震化、天井等落下防止対策の完了)
- ・私立学校の香附文化の醸成(税額控除等寄附金税制を活用する私立学校の割合を向上)

*は他施策と重複しているもの

5 教育政策推進のための基盤を整備する



※指標等については、現時点での候補であり、引き続き精査・検討が必要。

小・中学校の教育政策の目標

児童生徒等の安全の確保

学校管理下における障害や重度の負傷を伴う事故を可能な限り減少させるとともに、死亡事故の発生を限りなくゼロとすることを旨とする。

持続的な高等教育システムの構築

今後18歳人口の大幅な減少が予想され、特に地方においては小規模な大学が多く経営悪化が懸念される状況を踏まえ、教育研究の基盤強化に向けた高等教育のシステム改革により、特色ある「足腰の強い」大学づくりを推進する。

日本型教育の海外展開と我が国の教育のグローバル化

海外展開モデルケースの形成や、国内の教育環境・基盤の整備、諸外国との教育に係る人材交流の強化をすることで、日本型教育の海外展開と我が国の教育のグローバル化を推進する。

主な施策群

学校安全の推進

安全・安心で質の高い学校施設等の整備の推進(再掲) *

※検討中

官民協働による日本型教育の海外展開

途上国への教育協力

英語をはじめとした外国語教育の強化(再掲) *

国際化に向けた先進的な取組を行う高校・高専・大学等への支援(再掲) *

日本人生徒・学生の海外留学支援(再掲) *

外国人留学生の受け入れ環境の整備(再掲) *

海外で学ぶ子供や帰国児童生徒・外国人児童生徒等への教育推進(再掲) *

*は抜粋項目で掲載されているもの

- (参考指標候補)
- ・海外に対する教育事業に参加した日本側の教職員・学生・児童・生徒の対
 - ・海外に対する教育事業に参加した相手国側の教職員・学生・児童・生徒の対
 - ・日本人学生(高校生及び大学生等)の海外留学者数
 - ・外国人留学生数
 - ・海外の大学との大学間交流協定に基づく単位互換を実施する大学の数
 - ・開設もしくは開設予定の国際連携教育課程(JD)数
 - ・英語による授業を実施している大学の数及び割合
 - ・大学における入学時期の弾力化状況(4月以外で入学した学生数)
- (測定指標等の候補)
- ・今後の検討を踏まえ指標等を設定
- (測定指標候補)
- ・学校管理下における障害や重度の負傷を伴う事故等の発件数の改善
 - ・学校管理下において死亡する児童生徒等の数を限りなくゼロにする

20170729教育のあり方検討講演会アンケート結果

力を入れてほしい教育

総合

項目	選択数
心を豊かにする教育	19
基礎的な学力・技術に付ける教育	11
問題発見・解決する力をつける教育	14
たくましさをつける教育	20
コミュニケーションを高める教育	25
社会性を養う教育	11
自己肯定感を育む教育	18
個性を大切にする教育	5
主体的に行動することができる力を育てる教育	24
外国語教育	8
理科教育	1
ICT教育	5
郷土を愛する教育	9
歴史・文化を学ぶ教育	11
多文化・異文化理解	1
自然を大切にすること	2
その他	2

186

10代

項目	選択数
心を豊かにする教育	
基礎的な学力・技術に付ける教育	
問題発見・解決する力をつける教育	
たくましさをつける教育	1
コミュニケーションを高める教育	2
社会性を養う教育	
自己肯定感を育む教育	
個性を大切にする教育	
主体的に行動することができる力を育てる教育	
外国語教育	1
理科教育	
ICT教育	
郷土を愛する教育	
歴史・文化を学ぶ教育	
多文化・異文化理解	1
自然を大切にすること	
その他	

5

20代

項目	選択数
心を豊かにする教育	1
基礎的な学力・技術に付ける教育	
問題発見・解決する力をつける教育	
たくましさをつける教育	1
コミュニケーションを高める教育	
社会性を養う教育	1
自己肯定感を育む教育	
個性を大切にする教育	
主体的に行動することができる力を育てる教育	
外国語教育	
理科教育	
ICT教育	
郷土を愛する教育	
歴史・文化を学ぶ教育	
多文化・異文化理解	
自然を大切にすること	
その他	

3

30代

項目	選択数
心を豊かにする教育	2
基礎的な学力・技術に付ける教育	2
問題発見・解決する力をつける教育	3
たくましさをつける教育	4
コミュニケーションを高める教育	7
社会性を養う教育	3
自己肯定感を育む教育	6
個性を大切にする教育	1
主体的に行動することができる力を育てる教育	6
外国語教育	1
理科教育	
ICT教育	2
郷土を愛する教育	
歴史・文化を学ぶ教育	1
多文化・異文化理解	
自然を大切にすること	
その他	

38

20170729教育のあり方検討講演会アンケート結果

40代	項目	選択数
	心を豊かにする教育	5
	基礎的な学力・技術に付ける教育	2
	問題発見・解決する力をつける教育	6
	たくましさをつける教育	5
	コミュニケーションを高める教育	9
	社会性を養う教育	3
	自己肯定感を育む教育	6
	個性を大切にする教育	3
	主体的に行動することのできる力を育てる教育	10
	外国語教育	3
	理科教育	
	ICT教育	1
	郷土を愛する教育	2
	歴史・文化を学ぶ教育	2
	多文化・異文化理解	
	自然を大切にする心	
	その他	

57

50代	項目	選択数
	心を豊かにする教育	4
	基礎的な学力・技術に付ける教育	3
	問題発見・解決する力をつける教育	2
	たくましさをつける教育	3
	コミュニケーションを高める教育	3
	社会性を養う教育	
	自己肯定感を育む教育	4
	個性を大切にする教育	1
	主体的に行動することのできる力を育てる教育	4
	外国語教育	
	理科教育	
	ICT教育	
	郷土を愛する教育	3
	歴史・文化を学ぶ教育	
	多文化・異文化理解	
	自然を大切にする心	1
	その他	1

29

60代	項目	選択数
	心を豊かにする教育	3
	基礎的な学力・技術に付ける教育	1
	問題発見・解決する力をつける教育	2
	たくましさをつける教育	6
	コミュニケーションを高める教育	4
	社会性を養う教育	3
	自己肯定感を育む教育	2
	個性を大切にする教育	
	主体的に行動することのできる力を育てる教育	2
	外国語教育	1
	理科教育	
	ICT教育	1
	郷土を愛する教育	3
	歴史・文化を学ぶ教育	5
	多文化・異文化理解	
	自然を大切にする心	1
	その他	

34

70代以上	項目	選択数
	心を豊かにする教育	3
	基礎的な学力・技術に付ける教育	3
	問題発見・解決する力をつける教育	1
	たくましさをつける教育	
	コミュニケーションを高める教育	
	社会性を養う教育	1
	自己肯定感を育む教育	
	個性を大切にする教育	
	主体的に行動することのできる力を育てる教育	2
	外国語教育	1
	理科教育	1
	ICT教育	1
	郷土を愛する教育	1
	歴史・文化を学ぶ教育	3
	多文化・異文化理解	
	自然を大切にする心	
	その他	1

18

不明	女性	
	心を豊かにする教育	1
	外国語教育	1

教育のあり方検討懇話会

テーマ:「20年後の牧之原市を考えると、これからどのような力をつけたいか？」

WS2 「必要な学び」

総括

		つけたい力	理由	必要な学び	グループ
1	多くの対話や体験の場を通して、コミュニケーション能力を養う	コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を大切に ・つなげる力の必要性 	対話	1
				対話の機会	1
				世代を超えたふれあい	1
				ICT	1
				外国語(文化も含め)	1
		対話力	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての基本 	聴く力	2
				多様な人と関われる	2
				いろいろな人の話を聞く 聞いたあとに調べる⇒手紙やもう一度話す機会をつくる	2
				共感力	2
				人とのかかわりによって深く学べる授業の更なる推進	2
				「あいさつ」をより一層推進し、見える化する(あいさつの一言が自然に言えて本題に入れるように)	2
				他の学年や学校の子どもと共同で行う作業	2
		地域の祭に参加する	2		
		コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いを理解し、対話できるようにするため 	対話する場への参加	3
				職業体験	3
対話の場へたくさん参加する	3				
対話の仕方	3				
通学合宿	3				
スポ少への参加	3				
職業体験(農業、工業、商業、漁業)	3				
2	自分を認め、志を持ち進んでいける力を養う	自分を高める力	<ul style="list-style-type: none"> ・志 ・自分を認める ・視野の広さ ・命を大切に 	振り返る力(リフレクション)	1
				安全教育(交通・生活・防災)	1
				多様な文化、語学を学ぶ機会	1
				自分の適性を知る	1
				道徳	1
3	学校を安全な場所に設置するとともに、個人の危険回避力を養う	学ぶ環境	<ul style="list-style-type: none"> ・津波を気にせず勉強に集中するため 	危険回避力(リスクに対する学び)	3
				情報収集力、判断力	3
				危険予知訓練	3

		つけたい力	理由	必要な学び	グループ
4	積極的に多くの情報を取り入れたり、体験したりする中から、自分が必要なものを選び、自分の未来を見通しを持って、切り開くことができる力を養う	切り拓く力	・自分の将来 ・表現力	キャリアデザイン	1
				リスクに対する学び(リスクヘッジマネジメント)	1
				判断力	1
				情報収集力	1
				就労体験	1
				生き方を先達に学ぶ	1
				企業人によるゲストティーチャー	1
		計画力	・多くの情報から選び順位づける力が弱い	未来・夢を描く	2
				夢を語る ⇒夢の実現までどうすればいいかみんなで作る	2
				目標/目的を明確にする機会を設ける	2
				地域課題を自分で考えて解決する	2
				1つの完結したプロジェクトを実行する	2
				TO DO管理を小学校の日々の生活から徹底させる教育を行う。(メモしてチェック)	2
				テストに対してみんなでTO DOで管理する	2
		創造力	・自分の夢を持ち、将来それをかなえるため	視察(見学)により情報を増やす	3
読書の機会の増加	3				
未来年表	3				
知識拡大とそれにつなげる個々の学習(教科)バランス	3				
5	情報の活用や他者との連携を通して、新しい価値を生み出すことができる力を養う	創造力	・起業する力 ・たくましさ、前進する力 ・新しい価値	IOT ビックデータの活用	1
				大学・研究所との連携	1
				正解のない課題への追求	1
6	物やサービスの価値を知る機会をつくる	金銭感覚	・生きるために必要	地域貢献に対価を払う	2
				モノ、サービスの価値を知る機会	2
				自分たちでものをつくって売る経験	2

		つきたい力	理由	必要な学び	グループ		
7	郷土歴史を学び、地域での活動を通して地元への愛着心を育む	社会性	・社会の変化 ・地域愛(歴史)	実際に体験する	1		
				地域の協力(学校へ)	1		
				郷土歴史の学び	1		
				地域の祭典への協力	1		
				地域へ出る交通手段	1		
		郷土愛と絆	・地元への愛着心を深めるため	郷土愛	3		
				PR活動(歴史、文化知識の習得)	3		
				地域行事への参加(親との絆)	3		
				郷土歴史を聴く、対話	3		
				歴史、伝統を受け継ぎ伝えていく	3		
				地域への行事への参加	3		
				共同していく力	3		
				体験学習の充実	3		
				親の仕事が理解できる力(小学6年生)	3		
牧之原市を全国、世界へPRする(活動、体験)	3						
8	問題や変化に柔軟に対応できるように、課題の解決方法の導き出し方を学んだり、自由な時間をつくったりして、主体的に動くことができる力を養う	課題発見	・変化に対応するため	自由な時間・暇をつくる	2		
				自分に必要な学びを実感できるようにすべての授業で実施する(課題からスタート)	2		
				信頼し合う 任せる勇氣	2		
		対応力	・問題、変化が起きた時に柔軟に対応するため	チームビルディング(クラスの問題、授業、実体験)	3		
				ホームルーム等クラスの問題を考える時間	3		
				課題を解決方法を導き出す授業	3		
				多くの実体験をする(課外授業など)	3		
				チームビルディングをゲーム形式で学ぶ	3		
		9	失敗から学ぶ文化の醸成	行動力	・失敗を怖れて歩みがでない	クラスの中で「改善」を回す	2
						学年に応じて、学年⇒学校⇒地域と改善視野を拡大	2
考えたことを実行する	2						
失敗する経験	2						
失敗から学ぶ文化が芽生える雰囲気づくり(授業、地域、企業等)	2						
失敗した数を評価する	2						
課題発見後の改善案に対し、TO DOをチェックする	2						